



2024 年度 環境経営レポート

(対象期間 2024 年3月1日～ 2025 年2月28日)



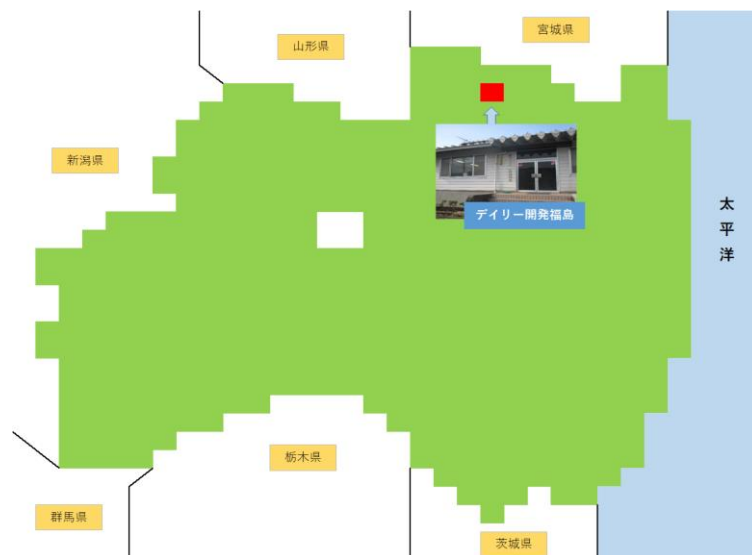
株式会社デイリー開発福島

発行日：2025年4月10日

改定日：2025年4月25日

目 次

項 目	ページ
ごあいさつ	2
環境経営方針	2
組織の概要	3
事業・製品の紹介	3
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	4
主な環境負荷の実績	5
環境経営目標及びその実績	5
環境経営計画の取組結果とその評価	6～8
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	8
代表者による全体の評価と見直し・指示	8



環境経営方針

<環境経営理念>

株式会社デイリー開発福島は、『お客様にとって価値のあるものを創造し、お客様に満足して頂ける商品を提供致します。』本業である食品の生産を通じて、地球温暖化等地球規模の問題や地域の課題の解決に向けて自主的・積極的に取り組みます。

安心・安全な製品をお客様に届けるため、働きやすい職場づくりを進める中で、創意工夫による環境経営の継続的改善を目指して、全社一丸となって取り組んでまいります。

<環境保全への行動指針>

- 1．環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
- 2．創意工夫により二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 3．食品廃棄ロスをなくす等廃棄物の発生抑制につとめ、食品リサイクル率の維持向上に努めます。
- 4．適正な利用により水使用量の削減に努めます。
- 5．洗剤や殺菌剤など適正管理に努めます。
- 6．安心で安全な商品を効率よくタイムリーにお客様にお届けします。
- 7．地域社会の環境活動に協力します。
- 8．地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。

制定日：2020年10月1日

改定日：2024年6月3日

代表取締役 鈴木 英孝

□組織の概要

更新日：2025年3月28日

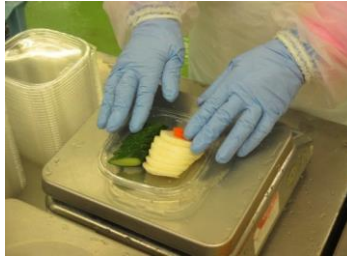
- (1) 名称及び代表者名
株式会社デイリー開発福島
代表取締役 鈴木 英孝
- (2) 所在地
本社・工場 福島県伊達郡桑折町伊達崎字巻目79-1
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 事業統括部 佐藤 守 TEL：024-576-3322
担当者 工場長 宇野 修二 TEL：024-576-3322
- (4) 事業内容
漬物・惣菜の製造及び販売
- (5) 事業の規模
売上高 388 百万円
従業員 28 名
延べ床面積 1157 m²
- (6) 事業年度 2024年3月1日～2025年2月28日（末日）

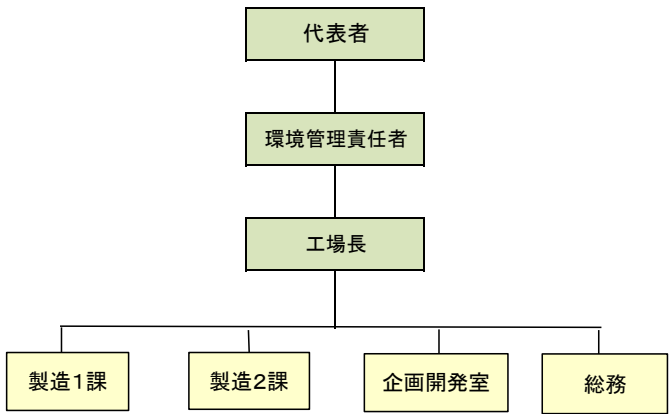
□認証・登録の対象組織・活動（全組織・全活動）

登録組織名：株式会社デイリー開発福島
対象事業所：本社・工場
活動：漬物・惣菜の製造及び販売

□事業や製品（商品）の紹介

製造品目：浅漬け（カップ商品）、キムチ（業務用など）
販売エリア：福島県内のコンビニエンスストアを中心に、東北エリア向けの浅漬等を製造





代表者 鈴木 英孝
環境管理責任者 佐藤 守

	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任
	・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備
	・実施体制の構築と環境管理責任者を任命
	・環境経営方針の策定・見直し
	・環境経営目標・環境経営計画書を承認
	・代表者による全体の評価と見直し、指示
	・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・経営における課題とチャンスの整理
	・環境経営システムの構築、実施、管理
	・環境関連法規等の取りまとめ表を作成及び最新版管理及び順守評価の実施
	・環境活動の取組結果を代表者へ報告
	・環境負荷の自己チェックの実施
	・環境関連の外部コミュニケーションの窓口
	・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付)
工場長	・環境経営方針の周知
	・従業員に対する教育訓練の実施
	・関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告
	・必要な手順書の作成及び手順書による実施
	・想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚
	・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	180,120	153,934	145,249
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	7,570	5,620	5,330
産業廃棄物排出量	kg	2,500	2,518	2,040
食品廃棄物				
発生量		112,130	109,290	57,135
発生抑制量		0	5,190	16,776
再生利用量		112,130	109,290	57,135
熱回収量	kg	0	0	0
減量量		0	0	0
再生利用以外の量		0	0	0
廃棄物処理量		0	0	0
食品再資源化実施率	%	100%	100%	100%
水使用量	m ³	13,564	9,608	10,608

※二酸化炭素排出係数 0.471 kg-CO₂/kWh 東北電力の調整後排出係数(2022年度)

※発生抑制量は、2019年度を基準に算出

□環境経営の中長期目標及び2024年度の実績

作成日：2025年3月28日

年 度		2023年度	2024年度		評 価	2025年度	2026年度
項 目		(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	149,975	146,975	142,519	○	139,669	136,876
	基準年度比	2023年	98%	95%	○	98%	98%
	原単位 kg-CO ₂ /百万円	401.561	393.529	366.875	○	359.537	352.346
LPガスによる二酸化炭素削減	kg-CO ₂	1,980	1,940	1,482	○	1,452	1,423
	基準年度比	2023年	98%	75%	○	98%	98%
	原単位 kg-CO ₂ /百万円	5.301	5.195	3.815	○	3.739	3.664
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	1,979	1,939	1,247	○	1,222	1,198
	基準年度比	2023年	98%	62%	○	98%	98%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	153,934	150,855	145,249	○	141,121	138,299
一般廃棄物の削減	kg	5,620	5,508	5,330	○	5,223	5,119
	基準年度比	2023年	98%	94%	○	98%	98%
廃プラの削減	kg	2,100	2,058	1,840	○	1,803	1,767
	基準年度比	2023年	98%	88%	○	98%	98%
食品廃棄物の発生抑制率	自主目標	95%	95%	100%	○	97%	99%
	食り法目標	2021年	50%	100%	○	50%	51%
食品廃棄物の再生利用率	自主目標	100%	100%	100%	○	100%	100%
	食り法目標	50%	100%	100%	○	50%	51%
水使用量の削減	m ³	9,608	9,416	10,608	×	9,416	9,228
	基準年度比	2023年	98%	110%	×	98%	98%
	原単位 m ³ /百万円	1.157	1.134	0.669	○	1.111	1.089
化学物質の適正管理	行動目標(次項による)						
環境に配慮した製品・サービスへの取組	行動目標(次項による)						

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

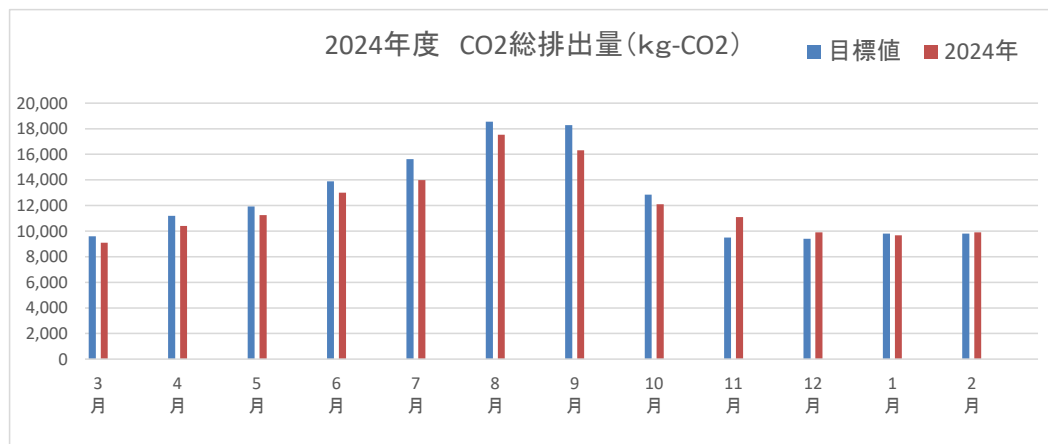
数値目標:○達成 ×未達成

活動:○よくできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画					達成状況	取組結果とその評価						
電力による二酸化炭素削減					達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画						
数値目標					○	2024年6月、老朽化した空調を省エネタイプに交換。主要エリアはLED化済み。次年度は、一般エリアのLED化を促進し、生産性を向上しながら作業の効率化を推進する。						
・空調設備の定期的なフィルター清掃の実施による電力削減					○							
・不要照明の消灯					○							
・仕事の効率化による定時退社の実施					△							
・老朽化した設備の入れ替え					○							
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
目標値	9,307	10,938	11,718	13,600	15,350	18,371	18,022	12,690	9,252	9,252	9,642	9,630
2024年	8,935	10,209	11,129	12,836	13,870	17,328	16,145	11,962	10,997	9,753	9,613	9,742

LPガスによる二酸化炭素削減					達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画						
数値目標					○	工場内でのお湯の使用量が減ったことで、ガスの使用量を削減できた。次年度も無駄のないお湯の使用で削減を心がけるよう指導する。						
・手洗い場の給湯器の消し忘れ防止					○							
・給湯室のお湯の節水取り組み					○							
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
目標値	89	78	78	82	60	48	39	37	43	50	56	54
2024年	58	65	50	48	32	28	26	35	35	45	58	60

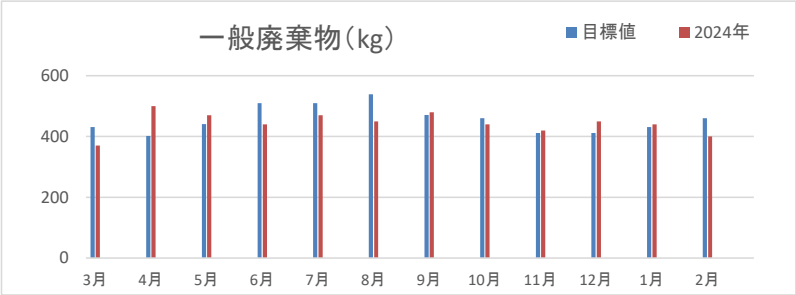
自動車燃料による二酸化炭素削減					達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画						
数値目標					○	コロナが収束してきたことで社用車を使用する機会が増加。次年度も公共交通機関やWeb会議を推進していく。						
・エコドライブの実践					○							
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
目標値	191	186	125	214	216	125	230	127	202	102	105	116
2024年	104	139	73	130	81	179	152	97	72	114	0	106



二酸化炭素総排出量

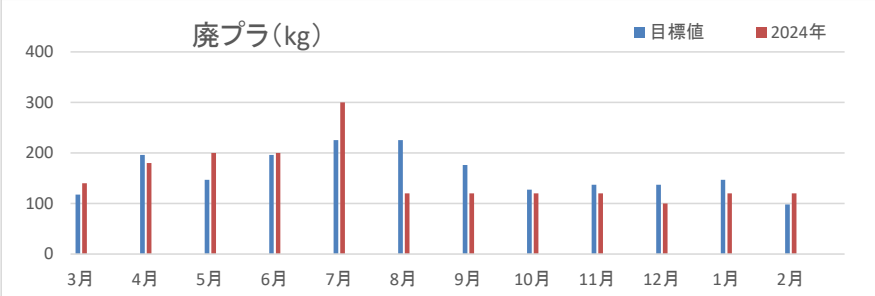
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
目標値	9,587	11,202	11,921	13,895	15,627	18,544	18,291	12,854	9,497	9,404	9,803	9,800
2024年	9,097	10,413	11,252	13,014	13,983	17,535	16,323	12,094	11,103	9,912	9,671	9,908

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	段ボール等の再生利用は徹底さるようになっている。次年度は、現場書類の電子化を更に進める。
・分別の徹底	○	
・コピー用紙の裏紙使用による削減	○	



	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
目標値	431	402	441	510	510	539	470	461	412	412	431	461
2024年	370	500	470	440	470	450	480	440	420	450	440	400

廃プラの削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	包材の形状が集約されたことや、地元農家からの仕入れ原料の内袋を無くしたことでプラの廃棄量が少なくなった。また、計画的な導入スケジュールで不良在庫が軽減した。次年度も引き続き計画的な商品導入と包装不良削減に取り組む。
・包装不良による手直し等を削減	△	
・商品導入・カットのスケジュール案内	○	
・購入する原料の内袋の削減	○	

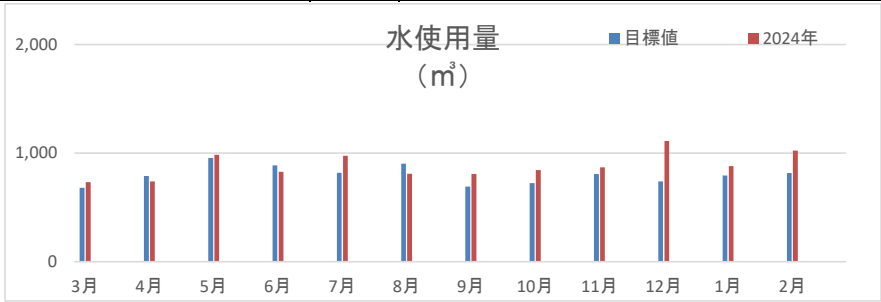


	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
目標値	118	196	147	196	225	225	176	127	137	137	147	98
2024年	140	180	200	200	300	120	120	120	120	100	120	120

食品廃棄物の発生抑制	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	地元農家からの原料購入割合を増やすことで品質の良い原料を使用することが出来、廃棄物抑制につながった。次年度も継続し品質向上による廃棄物抑制に繋げていく。
・原料入荷時の品質向上による廃棄物発生抑制	○	
・在庫管理や生産計画の精度向上による食品廃棄の削減	○	

食品廃棄物の再生利用率の向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	食品廃棄物の再生利用は堆肥化により100%を達成。次年度も引き続き継続する。
・食品廃棄物の堆肥化による再生利用の継続	○	

水使用量の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	白菜商品の製造量が増えたことで水の使用量が増加。節水の意識は浸透している。次年度も継続して水使用の意識向上に努める。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・清掃時の水の流しっぱなしをしない	△	



	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
目標値	680	790	955	886	820	903	692	724	807	740	794	817
2024年	732	739	984	829	976	810	808	845	870	1,112	880	1,023

化学物質の適正管理	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・従業員教育	○	有害物質の使用に対する教育を定期的に行えた。来期はGHSラベル表示の徹底と、保護具使用の教育を入社時から徹底する。
・有害物質の管理徹底	○	
環境に配慮した製品・サービスへの取組	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・日持ちする商品の開発	○	本来廃棄になる地元の食材を使用した新商品を開発し、テスト販売で高評価を得た。次年度は更に販売量を増加していく取組みを進める。
・環境に配慮した包材の検討	△	

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（動植物性残さ、廃プラ等）
食品リサイクル法	食品廃棄物
容器包装リサイクル法	容器包装
水質汚濁防止法	洗浄設備
フロン排出抑制法	業務用空調機・冷凍庫・冷蔵庫・コンプレッサー
自動車リサイクル法	社用車
福島県産業廃棄物等の適正化に関する条例	一般廃棄物、産業廃棄物（動植物性残さ、廃プラ等）
桑折町環境基本条例	一般廃棄物、産業廃棄物（動植物性残さ、廃プラ等）
家電リサイクル法	テレビ、エアコン、冷蔵庫
福島県生活環境の保全等に関する条例	空気圧縮機
浄化槽法	浄化槽

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

食品リサイクル法の事業者ごとの基準実施率は達成しています。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要請等

特になし

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2025年3月10日

・2024年度は、工場内のLED化を実施したことで目標数値を達成出来た。次年度は、それ以外の一般施設のLED化を進める。

・食品廃棄物のリサイクル率は100%を継続し、次年度は地元農家との取り組みを進め、廃棄物量を低減していくことを推進する。

・電子化によるペーパーレスは、対応項目を順次増やして行くようにする。

環境経営方針

環境経営目標・計画

実施体制他

☒ 変更なし

☒ 変更なし

☒ 変更なし

☐ 変更あり

☐ 変更あり

☐ 変更あり